



子ども大学学生新聞

第13号
子ども大学
かわごえ新聞部

なぜ?...疑問を持つことが大事

大津先生「言葉の魅力・楽しさ・不思議さ・怖さ」

二月二日土曜日午後二時から東京国際大学第一キャンパス314教室で、**明海大学教授・慶應義塾大学名誉教授の大津由紀雄先生**による「言葉の魅力、言葉の楽しさ、不思議さ、怖さを実感しよう」という授業がありました。出席者は四年生二五人、五年生四〇人、六年生三七人の計一〇二人、保護者は七〇人、兄弟は八人でした。



まず初めに、「子ども大学」は、なぜ「子ども大学」なのかという課題について

て、説明してくださいました。普通は「大学で開くから」「大学の先生が教えるから」という理由になりますが、先生は「すでに誰かが明らかにしたことを学ぶだけでなく、議論し、考えるのが大学で、子ども大学もそういう場所にしたいという理由で、この名前にしたのではないかと、話されました。

次に講義を受けるときに大切なことを教えてくださいました。それは「疑いを持つ」ことです。それは、人格に疑いを持つということではなく、その人の言うていることに疑いを持つことです。疑いを持つためには、好奇心や興味が必要で、好奇心や興味を持つことで、自然に「なぜ？」という疑問も生まれ、考えることができます。

次に言葉について知っておきたいことを教えてくださいました。一つ目は、人間だけに与えられた宝物で、ほかの動物には絶対にできないことだということです。

では、本当に無理なんでしょうか。それを検証するため、ヘイズ夫妻が一九五〇年ごろ、ビッキーというチンパンジーを、自分の子どものように育てました。人間の赤ちゃんは、家族や、周りの人たちが、話しかける、働きかける、語りかけるというような行動で、しゃべるようになりません。それをふまえて、チンパンジーを育てましたが、英語をしゃべることは、できませんでした。チンパンジーがしゃべれなかった理由の一つに、口の中が小さいという問題がありますが、これは形の問題で、言葉は身に付けていたかもしれません。

そこでまた、他の人がアメリカ手話を使って、ニームというチンパンジーを育てました。ニームは、たくさんの単語を覚えることはできましたが、単語と単語をくっつけて文を作ることではできませんでした。やはり、人間じゃないと言葉は使えません。ですが、人間でも、赤ちゃんの頃から話しかけたりしないと、言葉を覚えること、使うことはできません。

二つ目は、言葉には一つで何通りもの見方ができるということです。「たこをあげる」という文章では、「たこあげ」という見方と「たこをフライにする」という見方と、「たこを誰かにあげる」という見方があり、全部で三通りの見方があります。

「七色のカメレオンのめがね」では、「七色のカメレオンの、めがね」という見方と、「七色の、カメレオンのめがね」という見方があります。

「ぼくと手をつないでいるポチとミケ」という文章では、「ぼくが、ポチとミケ二匹と手をつないでいる」という見方と、「ぼくがポチと手をつないでいて、ミケがいる」という見方と、「ポチとミケが手をつないでいて、ぼくがいる」という見方と、「ぼくがいない」という見方と、「誰かの手をつないでいるポチとミケ」という見方があります。

このように一つの言葉で何通りもの見方があると、誤解を生んだり、だまされることがあります。例えば、学校で先生が、「君たちを悩ます宿題は出さないよ」と言ったとします。このとき生徒は、「宿題自体を出さない」という意味で、とらえています。先生が言いたかったのは、「難しいものは出さない」という意味で、宿題自体を出さないという意味では、ありません。

このように、何通りもの見方があることで、だまされることもあるそうです。(河野真央記者 寺尾小6年)

点の打ち方で意味が変わる

二時間目では、文の点の打ち方によって、意味が違うことを学びました。

点の打ち方のほかの言い方を「単語のまとまり」(山)という。これを見えない世界を利用するということ。これらのことを言葉のキャッチボールという。

(例)「怖い目のお化け」⇨「怖い、目のお化け」「怖い目の、お化け」「まとめ」

- 1、人は頭の中で言葉の回転をしている。
- 2、言葉にとつて見えないこと、相手の心をさっすすることがとても大切。
- 3、自分で考える言葉を持つている言葉は深い。

温泉まじゅうと温泉まじゅう温泉

(堤彩夏記者 大塚小6年)
最後に、みんな「温泉まじゅう」と「まんじゅう温泉」のイメージについて意見を出し合いました。「温泉まじゅう」

ゆう」は温泉で売っているまんじゅうというイメージ。では「まんじゅう温泉」はどんなイメージでしょう。みんなそれぞれイメージは違っていました。そこで先生は、みんなに自分のイメージを絵にかくように言いました。

先生はその絵をかけた紙に優しくサインをしてくださいました。

(長坂星名記者 高階北小6年)

大津先生にインタビュー

「人間にとって言葉は主」

Q 子どものころの夢はなんですか？

A 新幹線の運転手かアナウンサー。なぜかというと：僕、昔から乗り物が好きなんだよ。今はなくなっただけ、よく交通博物館に行つて模型を見ていたんだ。アナウンサーはおしゃべりが大好きで、ラジオなどで仕事ができたらいいなと思っていました。

Q 今日の授業に、なぜこのテーマを選んだのですか？

A 人間にとって言葉はすごく大事な宝物だから、このことを分かつてもらいたくて…。

Q みんなに一言お願いします。

A この授業をきっかけに、ぜひ言葉について、いろいろ学び、考えて欲しいね。

学生の授業感想

◇東祐樹君 新宿小6年

Q 授業で一番おもしろかったことは何ですか？

A やっぱ、まんじゅうおんせんだなあ。

Q 印象に残ったことは何ですか？

A 言葉の何が怖いと考えたこと。

Q 山村律貴君 高階小4年

Q 授業で一番おもしろかったことは何ですか？

A まんじゅうおんせんです。

Q 印象に残ったことは何ですか？

A 言葉を使うのは人間だけということ。

◇福岡磯君 新宿小6年

Q 今日の授業で学んだことは何ですか？

A 同じ言葉でも、全くちがう意味になることが分かったので、人とコミュニケーションをとるときは、気を付けようと思います。

(山口航記者 中央小5年)

◇沢田真雄君 武蔵野小5年

Q なぜ先生にサインをもらおうと思ったのですか？

A こんな授業は、とても珍しいから。忘れたくないから。

(長坂記者)

きょうの修了式

はなまる賞一〇人・皆勤賞四六人

第六期の修了式が、きょう四月一九日

東京国際大学第一キャンパス314教室

で行われます。池上彰先生の授業のあ

と、六年生七五人の代表に卒業証書が渡

され、授業を一回も休まなかったか、一

回しか休まなかった四六人に皆勤賞(四

年生一六人、五年生二二人、六年生一八

人)、すぐれた授業感想を書いた二〇人

(五年生六人、六年生四人)に「はなま

る賞」が授与されます。

第5回ミニかわごえオープン

子どもが主役の「こどものまち」



二〇一四年三月一五日(土)

午前一〇時から蓮馨寺参道で、子ども実行委員長の土田真由香さん、前年のこどものみち市長・長坂星名君、糸原恒久・蓮馨寺住職、川越市文化スポーツ部の今井孝雄部長、川越市教育委員会教育総務部の横田隆部長の五人によるテープカットがあり、第5回「ミニかわごえ」こどものまちがオープンしました。

テープカットのあと、上田清司知事からのメッセージの紹介があり、「今日と明日は皆さんがミニかわごえの主役です。働いてお金を稼いだり、そのお金を使って楽しんでいながら、皆さんの新しい発想でミニかわごえを進化させてください」とおっしゃっていました。遠藤克弥学長は「ミニかわごえでは、子ど

もたちが考えたことを、子どもたちが運営して、体験することが大事」と、おっしゃっていました。

広い境内にはテントが並び、お店が七〇店出ました。

(浅野璃子記者 杉下小5年)

市長に土田莉子さん

十二時半からは市長候補者の演説がありました。市長候補者は、新宿小6年生の福岡磯君、山田小4年生の土田莉子さん。福岡君は「今日ミニかわごえに来て、楽しかった、また来たいと思った人がたくさんいると思います。その気持ちをもっと強くなるようなミニかわごえにしたいと思います」と話しました。土田さんは「私が市長になったら、笑顔あふれるミニかわごえにできるようにがんばります」と話しました。

総投票数は一四九票。土田さんに九九票、福岡君に四八票、無効が二票ということ。土田莉子さんが新市長になりました。(河野真央記者 寺尾小6年)

土田真由香実行委員長に聞く

Q 二日間のミニかわごえは、どうでしたか？

A 楽しかったです。

Q どんなところですか？

A みんなと協力したところです。

Q 一番の思い出は、何ですか？

A オープニングのテープカットです。あと、みんなとの接客が、楽しかったです。

(浅野璃子記者 杉下小5年)

おことわり 新聞部はミニかわごえの期間中、号外を4号発行しました。その主な記事をここに掲載しました。